川崎医療福祉学会誌　Vol. 33　No. 2　2024　231－237

短　報

コラージュ制作における主体的な表現が感情の社会的共有に及ぼす影響

竹内いつ子[*1]　寺崎正治[*1]　武井祐子[*1]　門田昌子[*1]
岡野維新[*1]　林秀樹[*2]　澤原光彦[*1]

要　　約

本研究の目的は，コラージュ制作の主体的な表現がシェアリングにおける感情の社会的共有に及ぼす影響を検証することであった．大学生および大学院生16名をコラージュ制作条件の異なる自由群および制限群のいずれかに割り当て，4人1組で各自によるコラージュ制作と全員でのシェアリングを行い，発言内容を分析した．シェアリングでの感情の社会的共有に関する参加者の発言数を群間で比較した結果，自由群の方が感情に関する発言数およびポジティブな感情に関する発言数が多かった．このことから，コラージュ制作における主体的な表現は制作中にポジティブな感情を喚起しやすく，シェアリングでの感情の社会的共有を促進し，参加者間の交流が活性化される可能性が考えられた．

1．緒言

教育などの場面では，自己表現と参加者同士の相互交流を目的としてコラージュ制作がグループ活動に用いられており，コラージュ制作後には，制作過程を振り返り，作品の内容や感想などを参加者同士で分かち合うシェアリングが実施されることが多い[1-6]が，シェアリングの効果検証は十分には行われていない．青木[4]および吉田[7]では大学生を対象にコラージュ制作とシェアリングを行い，参加者の感想を分析した結果，コラージュ制作後のシェアリングでは，個々の作品内容の違いが際立ち，作品自体だけでなく，制作者個人にも関心が向けられる可能性が推察された．しかし，いずれもシェアリングで参加者のどのような発言があったのかは不明瞭であった．加えて，制作者の自己表現を可能にする活動はコラージュ制作の他にもあり，コラージュ制作の優位性を検証するためには，他の表現活動との比較が必要であると考えられた．

そこで竹内ら[8]は，制作者自身の好みや思考を表現できる活動として旅行計画をとりあげ，コラージュ制作と旅行計画の作成がシェアリングに及ぼす効果を比較した．旅行計画の作成後に比して，コラージュ制作後のシェアリングでは，他の参加者に対する質問や感想などのコメント数が多く，コラージュ制作の作品を視覚的に他者と共有でき，制作者の好みや思考，想像したことを表現できる点が他の参加者やコラージュ作品への関心が高め，参加者間の言語的コミュニケーションが促進される可能性が示唆された．さらに竹内ら[9]では，シェアリングでの発言内容を分析した結果，作品あるいは計画の内容を尋ねられた際に，旅行計画の作成後では，目的地と旅程についての具体的な内容や個人の知識と経験がより多く話されていたが，コラージュ制作後では，制作者の好みがより多く話された．また，制作中の体験について尋ねられた場合，コラージュ制作後では，素材の選択と構成を行った過程で「かわいいなあ」「きれいだなあ」等の感情が生じたことが話されていた．竹内ら[8,9]により，コラージュ制作は，その制作過程において制作者の好みや快感等のポジティブな感情が生じ，作品の内容とシェアリングでの制作者の発言に反映されることで，参加者間のコミュニケーションを活性化した可能性が推察され

＊1 川崎医療福祉大学　医療福祉学部　臨床心理学科
＊2 就実大学　教育学部　教育心理学科
（連絡先）竹内いつ子　〒701-0193　倉敷市松島288　川崎医療福祉大学
E-mail : takeuchi125@mw.kawasaki-m.ac.jp

た．また，旅行計画の作成に関する発言内容では，移動時間や旅費，日程などの現実的な事象が目立ったことに対して，コラージュ制作においては，制作者自身が好みや連想に基づいて，用意された雑誌等のなかから「素材の選択」および「構成」をより主体的に行えた点がシェアリングでの参加者の発言を促進したのではないかと推測される．このことを検証するためには，同じコラージュ制作においても素材の選択や構成などの制作内容が自由である場合とより制限された場合でのシェアリングを比較する必要がある．

コラージュ制作過程は，素材を選択し，切り取り，これらの素材を構成しながら用紙に貼り付けていく段階がある．それぞれの段階において制作者はどの素材を作品に用いるかを取捨選択することができる．この制作過程における素材選択の自由さは，コラージュ制作の特色の一つと考えられている[10]．本研究では，コラージュ制作がシェアリングでの発言に及ぼす影響は，コラージュ制作の特徴である制作過程において制作者自身が「素材の選択と構成」を行い，「作品内容を決定する」ことで，主体的な表現が可能である点に起因すると仮定する．その検証のために，一般的な制作方法に準じ，制作者が自由に素材の選択と構成を行い，作品の内容を決定できるコラージュ制作条件と，素材の選択と構成，作品内容の決定が制限されるコラージュ制作条件の2つの比較条件を設定する．加えて竹内ら[8,9]では，コラージュ制作の素材として実験者が選定した市販の雑誌を用いており，参加者間で材料が統一されていなかったため，素材選択の条件に偏りが生じた可能性がある．そのため，本研究では今村ら[11]によって開発されたコラージュ療法基本材料シート集（以下，コラージュ材料集とする）を用いることで，制作方法における制限以外の条件を可能なかぎり統制する．

中島と岡本[12]は，クライエントがコラージュ制作で自己を表現し，制作後に作品内容や制作過程における感情について話し，治療者が十分にそれを聴くことによってクライエントの心理的変化に繋がると述べている．このことから，本研究ではシェアリングの効果として感情の社会的共有に着目する．Rimé et al.[13]によると感情の社会的共有は，他者との相互作用を促進する機能があることが報告されている．また，ポジティブな感情の社会的共有により，発言者のポジティブな感情がより高まることや，聞き手との社会的相互作用によって，心理的距離が近くなることが示されている[14]．これらから，竹内ら[8,9]のシェアリングでは，コラージュ制作過程で喚起された制作者のポジティブな感情が社会的共有されたことで，聞き手から肯定的な反応があり，相互の関心を高め，コメント数が多くなったことが推測された．しかし，感情の社会的共有に関する発言内容については検証されていない．

そこで本研究では，シェアリングでの感情の社会的共有にあたる発言について，主体的な表現が制限されたコラージュ制作条件との比較を行うことで，コラージュ制作における主体的表現がシェアリングでの感情の社会的共有に及ぼす影響を検証することとした．

２．方法

２．１　実験計画

本研究では，2つのコラージュ制作条件を設定した．①一般的な制作方法に準じ，制作者が自由に素材の選択および構成を行う制作条件（以下，自由群），②見本と同じコラージュを制作する条件（以下，制限群）である．そして，シェアリングにおける感情の社会的共有についての発言数を群間で比較する．

２．２　実験参加者

2019年10月から2020年1月にかけて，大学生及び大学院生16名（男性2名，女性14名，平均年齢±標準偏差は21.63±1.67歳）を対象に実験を行った．実験参加者（以下，参加者とする）を無作為に8名ずつ，自由群あるいは制限群のいずれかに割り当て，4人1組のグループ単位で，個人でのコラージュ制作の後，各グループ内でシェアリングを行った．

２．３　材料

コラージュ制作には，コラージュ材料集[11]と道具（はさみ，カッター，スティックのり，8切り画用紙，下敷き，鉛筆，消しゴム）を用いた．コラージュ材料集[11]は，コラージュ制作のための素材集であり，人物，動物，自然・風景，建物・室内，食べ物，乗り物，日用品･装飾品，芸術･宗教，スポーツ，キャプション，その他の内容の写真やイラストが複数印刷された20枚（192種類）と色画用紙（ピンク・水色･黒）3枚で構成されている．自由群はコラージュ材料集を用いて自由に制作を行った．制限群は，予め実験者によって使用できる素材に印が付されたコラージュ材料集を用い，提示された見本のコラージュ作品のコピーを見ながら制作した．

制限群に提示した見本のコラージュ作品は，本研究と同様に大学生がコラージュ材料集と道具，制作時間で自由制作する予備実験を行い，使用された素材の個数の平均値および使用頻度の高いものを選定した．更に高校生と大学生を対象にした先行研究[5-7]を参考に，参加者が選択する傾向が高い素材を確認し，調整した．最終的に，コラージュ材料集から15

種類の素材（1；山，2；城，3；トロッコ，4；炎，5；猫，6；亀，7；子ども，8；お菓子，9；スポーツをする青年，10；本，11；非常口，12；月，13；キャプション「私の…」，14；シャボン玉の風景，15；花）と黒色の画用紙が選定された．できる限り作品内容の偏りを防ぐために，コラージュ材料集の素材に番号を付し，選定された素材の番号の小さい順番に画用紙の左端から時計回りに配置し，画用紙に収まるように素材の形状を整えた．

２．４　手続き

実験の流れと教示内容を図1に示した．4名の参加者は実験室に入室すると，2人同士が向かい合う形で机の周りに着席した．机上には実験者が予めＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄのアルファベットを付しており，すべての参加者が着席した後，各人に対応したアルファベットを確認した．始めに，実験者から各自で1つずつコラージュ作品を制作し，その後コラージュ作品を見せ合いながらシェアリングを実施することを説明した．その後，道具を配付し，制作内容についての教示を行い，コラージュ制作を行った．制作時間はいずれの条件も25分間で，実験中のタイムキーパーと教示はすべて実験者が行った．

コラージュ制作後にシェアリングを実施した．シェアリング導入時の教示は，青木[3,4]や東[15]の導入法を参考にした．続いて，実験参加者Ａのコラージュ作品を全員から見える位置に置き，参加者に作品を見えることを確認した．ひとりあたり約5分間で，作品を見ながら質問とそれに対する応答を行った．初めに実験者から参加者Ａにいくつか質問をしながらシェアリングを進行し，途中で参加者B･C･Ｄに質問や感想を尋ね，Ｂ・Ｃ・Ｄが任意にコメントし，それに対してＡが応答した．その後，参加者B･C・Ｄについても同様に行った．実験者からの質問項目および他の参加者への呼びかけ（表1）はすべての参加者に対して同じ順番で時間のある限り行った．

２．５　シェアリングでの参加者の発言内容の記録

2台のデジタルビデオカメラを用いて，シェアリ

手続き	教示内容
1　導入	実験中は着席された場所に付されたA・B・C・Dでお名前をお呼びします．
	始めに各自でコラージュ作品を制作いただき，後程作品について全員で話し合います．
2　コラージュ制作の導入	自由群；お配りしたものを自由に使って，時間内でできるところまで，おひとりで1つのコラージュ作品を作ってください．
	制限群；お配りしたものを使って，時間内でできるところまで，おひとりで見本と同じコラージュ作品を1つ作ってください．
3　コラージュ制作（25分）	両群；終了時間までに画用紙の裏面にタイトルを記入しておいてください．
4　シェアリング（ひとりあたり5分）	両群；Aさんから順番に，作成したコラージュ作品についてお話ししていただきます． 初めは私からお尋ねしますので，他の皆さんは途中で何か聞きたいことや感想などがあれば自由に発言してください． その際，尋ねられても答えたくないことについては話さなくて構いません． また他の方に対して評価や批判をするような内容は話さないようにしてください．
5　片付け・作品の回収	
6　ディブリーフィング後終了	

図１　実験の手続きと教示内容

表１　シェアリング時の実験者からの質問項目と質問の順番

1	まずタイトルを教えてください．
2	次に内容に関して，簡単に教えてください．
3	皆さんから聞きたいことや感想など何かあればどうぞ．（15秒待つ）
4	作品をどのように作っていったのですか？
5	作品を作っていて思ったことや考えたことはありますか？
6	皆さんから聞きたいことや感想など何かあればどうぞ．（15秒待つ）
7	作品の中で，気に入っているところはどこですか？
8	皆さんから聞きたいことや感想など何かあればどうぞ．（15秒待つ）

ング時の参加者の様子を撮影した．その映像と音声のデータをもとに，実験者がシェアリング時における参加者の発言内容を逐語で記録した．

２．６　データの整理と分析方法

表1に示されたシェアリング時の実験者からの質問項目および他の参加者からの質問やコメントに対する参加者の発言を分析の対象にした．加えて，シェアリング中に参加者が他の参加者に対して行った質問や感想などのコメントも分析対象とした．なお，相づちとお礼は分析対象から除いた．シェアリングでの参加者の発言の逐語記録をもとに，参加者は話し始めてから話し終わるまでの発言に関して，話題が変わったところで区切ったものを1つの単位とした．

両群の発言のうち感情の社会的共有にあたるものを比較するために，寺崎ら[16]による多面的感情状態尺度，小川ら[17]による一般感情尺度および三浦ら[18]による感情語リストの項目と照合し，あてはまるものを「感情に関する発言」として分類し，計数した．更に，寺崎ら[16]による多面的感情状態尺度のうち肯定的な感情状態と否定的感情状態を表す尺度項目と三浦ら[18]による感情語リストのポジティブ感情およびネガティブ感情を表す語と照合し，ポジティブな感情を表す発言（「好きなので貼りました」，「かわいいなあと思って貼りました」等）とネガティブな感情を表す発言（「普通にまっすぐ貼ったらつまんないなあ」，「結構苦労しててしんどい」等）とに分類して計数し，群間で比較した．また，各参加者から制作者へのコメントについても計数し，ポジティブな感情を伴うコメント（「面白いなあ」「きれいなかんじだなあ」），感情語を含まず，作品について思ったことや考えたこと等の思考を表すコメント（「なるほどなあ」「私は夜かなと思った」），制作者への質問に分類した．結果の統計的分析には，統計ソフト IBM SPSS Statistics Version 23を用いた．

３．結果

３．１　感情の社会的共有および感情価別の群間比較

自由群および制限群のシェアリングにおける感情に関する発言数，ポジティブな感情に関する発言数およびネガティブな感情に関する発言数を用いて Mann-Whitney の U 検定を行った．感情に関する発言数およびポジティブな感情に関する発言数には，群間で有意な差が認められた（U=6，p = .005：U=7，p = .007）．ネガティブな感情に関する発言数については有意な差は認められなかった（U= 13.50，p = .05）（表2）したがって自由群は制限群に比して，シェアリングで作品について話す際に，ポジティブな感情を伴った発言が多いことが示された．

３．２　制作者へのコメント数の比較

シェアリング中に参加者が制作者に対して発した質問や感想などのコメント数を用いて Mann-Whitney の U 検定を行ったところ，有意な差は認められなかった（U=29.00，p = .80）．制作者へのコメントのうち，ネガティブな感情を伴うコメントは

表２　シェアリングでの感情発言数および制作者へのコメント数の比較
（N＝16）

	自由群（n=8）中央値	制限群（n=8）中央値	p 値
感情に関する発言	7.0 (6.25-11.0)	2.0 (1.25-3.0)	0.005**
ポジティブな感情発言	5.0 (4.25-9.0)	1.0 (0.0-2.0)	0.007**
ネガティブな感情発言	2.5 (1.25-3.0)	1.0 (1.0-1.0)	0.05
制作者へのコメント数	2.5 (1.25-4.0)	3.0 (1.0-5.0)	0.8
作品に関する質問数	1.5 (1.0-3.75)	0.0 (0.0-1.0)	0.04*
ポジティブ感情含むコメント数	0.0 (0.0-0.0)	0.5 (0.0-1.75)	0.28
思考を含むコメント数	1.0 (0.0-2.0)	3.5 (2.0-4.75)	0.038*

注：（　）内は四分位範囲を示す．　**p＜.01，*p＜.05

表３　制作者に対するコメント内容の分類（N＝16）

		自由群（n＝8）		制限群（n＝8）	
	カテゴリー	発言	内容例	発言	内容例
感想	(1) ポジティブ感情伴う感想	3	C1 構図が，右と左で別れているのが面白いなあって思ったんですけど. C2 なんか，かわいい（笑）. C3 とてもきれいな感じだなあと思ったんですけど.	4	RC1 それを題名にするのが面白いなあと思いました. RC2 昔の過去の思い出っていう考えは，面白いなと思いました. RC3 すごいこう，きれいにつながって見えたんで.
	(2) 作品への思考を含む感想	9	C4 飛行機っていうのは，旅行行きたいのかなって思ったんですけど. C5 人生というテーマで，なんだか深いなあって思いました. C6 月を，猫が来た方向に，月を置くのは，すごい自分は，神秘的だなあと思って.	11	RC4 私も切っていたら，ああ終わっちゃったーみたいな感じがあったので. RC5 全体的に，ぴしっと，こうきっちり，作りあげられている感がありました. RC6 あの，ぎゅうぎゅう詰めな感じで貼ってあって，Bさんが狭ないって，みちーっとしている感じっていうのは，感じました（笑）
質問	(3) 作品内容に関する質問	15	C7 あの宇宙飛行士…は何で貼ったんですか？ C8 シャボン玉，の意味とか，何かありますか？ C9 あの，ペンギンとアイスの上にある，音符，はどういう気持ちで付けたのか教えてほしいです.	0	
	(2) 確認	1	C10 なんか，写真が，こう．こう，じゃないですか.	2	RC7 たまたま？（笑） RC8 あの，タイトルが「私の好きなもの」っていうことだったんですけど，非常口，の標識があって，あるじゃないですか.

両群ともに生じていなかった．ポジティブな感情を伴う感想として分類されたコメント数を群間比較したところ有意な差は認められなかった（U=21.50, p＝.28）．一方で，感情語を伴わず，作品について思ったことや考えたことについての感想を述べたコメント数および制作者に対して作品内容についての確認と質問をしたコメント数を用いて群間比較したところ，有意な差が認められた（U=11.00, p＝.028：U=12.00，p＝.038）．したがってコラージュ制作の主体的表現の有無によりシェアリングでの制作者へのコメント数には差が生じないことが示された．しかし，自由群は制限群に比して，作品に関する確認および質問の量は多く，作品に対して思ったことや考えたことについてのコメントは少なくなることが示された（表2）．また，作品に関する感想や質問のコメント内容については，分類カテゴリーごとに表3に示した．

４．考察

４．１　コラージュ制作での主体的な表現がシェアリングでの感情の社会的共有に及ぼす影響

シェアリングでの感情に関する発言数に関して，ポジティブな感情を伴う発言は制限群に比して自由群が多かったことから，コラージュ制作での主体的な表現ができることで，制作中のポジティブな感情体験につながり，シェアリングでのポジティブな感情の社会的共有を促進する可能性が考えられた．これは竹内ら[8,9]によって示されたコラージュ制作過程で制作者の想像や感情が喚起され，シェアリングでの発言を促進しうる点を支持する．また森谷[1]および西村[10]が述べる，コラージュ作品を通じて，クライエントが過去や現在の自分について語り，そのなかで願望や感情の動きを話すことに繋がるという心理療法としてのコラージュ制作の効果について，基礎的な検証により支持するものと位置づけられる．ただ，本研究においては，主体的なコラージュ制作中の感情体験について，シェアリング時の発言内容からの部分的な確認や推察に留まっている．したがって，シェアリングでの感情の社会的共有との関連を明らかにするためには，制作中の感情体験に関するより詳細な検証が必要と考える．

４．２　コラージュ制作の主体的表現がシェアリングでの制作者へのコメントに及ぼす影響

本研究では，コラージュ制作方法における主体的表現が，作品内容についての制作者への質問の量を促進する可能性が示唆された．感情の社会的共有は，話し手から感情が語られた際に，聞き手が関心を示すことで，より感情が強く表現され，親密さが高まることが示唆されている[13]．本研究においても，コラージュ制作における制作者の主体的な表現により，青木[4]および吉田[7]よって報告された参加者個人の表現の違いが生じ，話し手のコラージュ作品の内容やその表現の意図について聞き手の関心が高まり，制作者への質問を促進し，話し手によるポジティ

ブな感情の社会的共有が促進された可能性が考えられる．今後，シェアリングでの感情の社会的共有に関して，聞き手の関心の変化および聞き手の反応に対する話し手の認識を発言内容のプロセスに沿って検証することで，参加者間のコミュニケーションを活性化するシェアリングの要因についてより詳細な知見を得られるものと考える．

倫理的配慮

参加者には，4名1組で活動を行うこと，活動の様子をビデオカメラで撮影すること，所要時間は約80分であること，実験で得られたデータは論文作成の為にのみ使用し，論文中では個人が特定されない形で表記されること，一旦実験への参加に同意した場合でも，同意の撤回は可能であり，途中で実験への参加を取りやめても不利益にはならないことを事前に説明し，実験参加の同意を得た．またその旨を書面に記録し保管した．データは施錠可能な部屋の施錠できる棚に保管し，第三者や外部に流出することの無いように実験者が管理した．なお，実験の実施にあたり，著者が所属する大学の倫理委員会の承認を得た（承認番号：19-020）．

謝　辞

本実験にご協力下さった参加者の皆様に対して，心より感謝申し上げます．本研究は，JSPS 科研費（課題番号：19K03360）の助成を受けたものです．

付　記

本研究の一部は，日本パーソナリティ心理学会第31回・第32回大会にて発表された．

文　献

1）森谷寛之：コラージュ療法実践の手引き―その起源からアセスメントまで―．金剛出版，東京，2012.
2）烏丸佐知子：コミュニケーションワーク活性剤としてのコラージュの有効性について．京都文教短期大学研究紀要，46，109-119，2007.
3）青木智子：コラージュ集団集団法・集団個人法―職業訓練校における自己開発を目的としたコラージュ制作―．産業カウンセリング研究，4(1-2)，17-26，2001.
4）青木智子：グループにおけるコラージュ技法導入の試み―コラージュエクササイズを用いたグループエンカウンターと気分変容についての検討―．日本芸術療法学会誌，32(2)，26-33，2001.
5）佐藤仁美：看護教育におけるコラージュ活用の試み―自己理解・他者理解・相互理解―．心理臨床学研究，21(2)，167-177，2003.
6）白石裕子，則包和也：精神臨床看護論演習におけるコラージュ療法の活用―学生の自己理解・他者理解の促進をめざして―．香川県立医療短期大学紀要，3，141-147，2001.
7）吉田輝美：コミュニケーションツールとしてのコラージュ法の検討―芸術療法を用いたコミュニケーションの広がりについて―．仙台白百合女子大学紀要，14，115-129，2009.
8）竹内いつ子，寺崎正治，武井祐子，門田昌子：集団でのコラージュ制作とシェアリングにおける参加者の気分変化と親和行動．川崎医療福祉学会誌，25(1)，75-83，2015.
9）竹内いつ子，寺崎正治，武井祐子，門田昌子：集団場面での活動後のシェアリングにおける参加者間の会話の特徴―コラージュ制作と旅行計画作成との比較―．川崎医療福祉学会誌，28(1)，221-229，2018.
10）西村喜文：コラージュ療法の可能性―乳幼児から思春期までの発達的特徴と臨床的研究―．創元社，東京，2015.
11）今村友木子，加藤大樹，二村彩，今枝美幸：コラージュ療法基本材料シート集の開発と今後の活用．金城学院大学論集 人文科学編，11(2)，21-31，2015.
12）中島美穂，岡本祐子：コラージュ継続制作における内的体験過程の検討．心理臨床学研究，24(5)，548-558，2006.
13）Rimé B, Bouchat P, Paquot L and Giglio L：Intrapersonal, interpersonal, and social outcomes of the social sharing of emotion. *Current Opinion in Psychology*，31，127-134，2020.
14）Rimé B, Finkenauer C, Luminet O, Zech E and Philippot P：Social sharing of emotion: New evidence and new questions. *European Review of Social Psychology*，9，145-189，1998.
15）東知幸：コラージュを組み合わせた人生グラフテストを用いたグループワークがもたらす心理的効果．心理臨床学研究，31，541-551，2013.
16）寺崎正治，古賀愛人，岸本陽一：多面的感情状態尺度の作成．心理学研究，62(6)，350-356，1992.

17）小川時洋，門地里絵，菊谷麻美，鈴木直人：一般感情尺度の作成．心理学研究，71(3)，241-246，2000.
18）三浦麻子，鳥海不二夫，小森政嗣，松村真宏，平石界：ソーシャルメディアにおける災害情報の伝播と感情―東日本大震災に際する事例―．人工知能学会論文誌，31，1-9，2016.

（2023年11月16日受理）

The Effect of Intentional Expression in Collage Execution on Social Sharing of Emotions

Itsuko TAKEUCHI, Masaharu TERASAKI, Yuko TAKEI, Masako KADOTA,
Ishin OKANO, Hideki HAYASHI and Mitsuhiko SOUNOHARA

（Accepted Nov. 16，2023）

Key words : collage, sharing, group, social sharing of emotion

Abstract

The purpose of this study was to examine the effect of intentional expression in collage execution on the social sharing of emotions during sharing. Sixteen participants (university students (n=15) and graduate students (n=1)) were divided into four groups and assigned to attend either Restricted (RCEM) or Normal Conditions (NCEM) in the collage execution method, and later to carry out sharing of each group. The number of participants' comments on social sharing of emotions in the sharing session was compared between the two groups. This suggests that intentional expression in collage execution may easily evoke positive emotions, promote social sharing of emotions during sharing, and activate interactions among participants.

Correspondence to : Itsuko TAKEUCHI
Department of Clinical Psychology
Faculty of Health and Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
288 Matsushima，Kurashiki，701-0193，Japan
E-mail：takeuchi125@mw.kawasaki-m.ac.jp
（Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.33，No.2，2024 231－237）